

事業計画書

1. 事業名

物々交換プロジェクト～モノ語る物語～ 「mono-cle (モノクル)」

2. 団体名 (会員数)

J o y - B o x (会員数: 10人)

3. 実施期間

平成21年5月10日～平成22年2月末

4. 事業目的

【事業の背景】

私たち「先進国」の暮らしは「行き過ぎた大量生産・大量消費」で支えられている。しかし、地球資源と環境に限界があることを考えると、その消費的な暮らしは継続困難である。私たちの消費的な暮らしを支える「貨幣」や「自由経済」はひとつの見直しの時期に来ており、次世代「循環型社会」を創造するために、新たなモデルづくりが急務とされている。

【事業の目的】

「循環型社会」では消費したモノをできるだけ大切に使うことが必要である。古くより日本には「足る」や「M O T T A I N A I」の言葉があり、そこにはモノに対して金銭的価値だけではなく、思い出や必要性など金銭では説明できない価値を認める精神がある。自分が必要としていないもの(0円・ゴミ)でも、違う誰かが必要としていることがあり、「循環型社会」では金銭では説明できない価値(エコやロハスなど)を発見することが重要となってくる。そうした価値の存在を認め、有限な資源をただ消費するのではなく分かち合う豊かさを、次の社会を担う若い世代を中心に訴えかけるとともに、幅広い世代で共有する。

【事業の効果】

本事業においては、以下の点を達成目標とし、市民への価値の還元を図る。

1) 「モノを大切にする心の涵養」・・・対象/個人

物々交換へ参加することにより、それまで“ごみ”と認識していたモノを“資源”と捉える機会ができ、エコと「M O T T A I N A I」の精神を、実感を持って育てることが出来る。押しつけではなく、自分の実感の下に得た考えはその後も利用者の日々の生活の中に影響を及ぼす事ができる教育効果を持つ。

2) 「モノを必要な場所へ循環させる仕組みづくり」・・・対象/個人・団体

物々交換により、必要としないモノが利用者に処理負担をかけることなく回収され、そのモノが必要とされる利用者の下に購入負担をかけることなく届く。つまりお金を媒介とせず、不要なものを手放し・新しく必要なものを手に入れることが出来る仕組みが出来る。

3) 「モノ・ヒト資源も循環させる繋がり創出」・・・対象/団体

お金を媒介としない物々交換の特色として、必ず人と人がコミュニケーションを取って関わることが必要になる。強者一弱者、支援する側一支援される側、団体一人など様々な関係性をフラットにし、またモノの流通を通してエコと、食育・平和・国際交流・音楽イベント・アートイベント等異なる種類の団体を繋げ、コラボレーションや人的資源の共有により、技術への外注を減らすことでのコストの削減と共に、福岡における環境市民活動の活性化を目指す。

*いずれは市内各地で様々な主催による物々交換の企画が実施されることを目指す。

5. 事業概要

■物々交換イベント「モノクル」の開催**[回数・会場]**

- ・年間通算で5回を予定
- ・天神地区の屋外イベントや地域の祭り等への出店、屋内会場での主催を予定。

[内容]

- 1) インターネットメディア（HPサイトやSNS）、印刷物を通じた広報、関係者・友人からの口コミ等で物々交換の物資（以下“m o n o = (モノ)”と表記）を事前に集める。若しくはイベント会場に持参するよう周知。事前提供者はモノクル参加会員カードに登録し、そのm o n oの貨幣価値に関わらず1点当たり1ポイント（以下“1 π = (パイ)”と表記）を受け取る。1回の引き取りにつき最高5 π を上限とする。
※ π の意味は「無限なもの」「数字で割り切れない価値」を表す。
- 2) 会場を設定して物々交換イベントを実施。事前に π を持っている客・m o n oを持参して来場した客は、その π を利用して1 π につき1点のm o n oを自由に持ち帰ることが出来る。通りがかりの新規客として来場した場合は、その時に持っている何かで交換に参加するか、m o n oも π も持っていない場合でも希望すればカード会員登録の上で、次回以降のイベントで何かm o n oを持ってきてもらうことを約束に、事前に1ポイント貸し付けを受け、利用する事が出来る。
- 3) π の使用期限は本事業が終了する2月末までとし、その時点で保管されているm o n oは、福岡市内で活動している児童福祉施設やホームレス支援団体への物資寄付とする。どうしても受け入れ先が見つからないm o n oに関してはリサイクル業者に引き取ってもらい、その収益を他の環境活動団体への金銭寄付とする。

[特色]

- 1) 物々交換の対象を若者の消費が大きいとされる【ファッション用品・CDやDVD・本】を中心にすることで、次の社会を担う世代に身近でリアルな啓蒙を行う。
- 2) 事業を行う商品としてのm o n o自体を譲り受ける（正確には[π の発行] = [別のm o n oを受け取る権利]と引き換え）ことで仕入れるために、「エコ活動のためにモノ（エコバッグなど）を新たに購入する・消費する」という矛盾点を解消することができ、活動経費の圧縮と共に、その活動を実践・継続していくこと自体が循環型システムの価値をPRすることになる。
- 3) 直接的に対面して取り引きする物々交換ではなく、あえて間にポイントを挟むことにより、長期的な参加者の確保と、m o n oとm o n o・人と人が別の会場・時間で再会する面白みを提供でき、環境に意識が向いた市民交流の空間となる。
- 4) 参加者（物資提供者）へのポイント付与にコイン等ではなく会員カード発行制を採用することにより、参加者の人数の把握がしやすくなり、また個人の参加履歴・頻度が目に見える面白さからリピーター率が上がりスタッフ側との交流のきっかけにもなる。
- 5) m o n oの提供者に、それに関する思い出を記入した「エピソード・タグ」をつけてもらうことによって、手放す側と新たに受け取る側の両方でm o n oの物語が繋がり、想像力からモノを大切に作る心が育まれる。
- 6) 主催イベントだけでなく、他団体の活動の場にブース出展することで、人やm o n oの中継・システムを強化すると共に、イベント間で広報活動・集客を共有することにより、他の環境市民活動の活性化に繋げることができ、またいずれは他の団体でも自発的に物々交換の企画を行いたい！という声がかかることが期待される。

<p>■エコ・キャンドルナイトの開催</p> <p>[時期/回数/場所] 6月21日(夏至の日)・12月22日(冬至の日) / 年2回/カフェなど</p> <p>[内容] リユースキャンドルナイトでのカフェ営業にてスローな音楽やエコなアート絵本の朗読等を行い、おしゃれなエコのイメージを訴える。また同時に本団体・事業と関連がある団体や個人を招いて、企画のプレゼン(6月)・経過報告(12月)を行う交流会を実施。</p> <p>■「モノ」「カネ」「消費」から循環型社会の実現を考える講演会の開催</p> <p>[時期/回数/場所] 9月下旬/年1回/民間貸ホール</p> <p>[内容] 本事業のモデルとなった物々交換イベント「xChange」の主催である環境活動家・丹羽順子氏を招き、一般向けの講演会を開催。</p>
--

6. 今年度の主な計画

実施年月日	実施場所	活動内容	参加予定人数 (会員以外)
毎月2回	福岡市内各所	monoの回収・掃除・保管	—
6/7	天神中央公園	食育・環境イベント「よか食祭り」(主催・食育推進ネットワーク福岡)内に物々交換ブース出店。[モノクル①]	100人
6/21	Australian Bean's Cafe (早良区西新)	エコ・キャンドルナイトの実施(事業協力者へのプレゼン・交流会を兼ねる)	30人
7月下旬	西新~高取地域	高取地区の夏祭りイベント「土曜夜市」(主催・地域自治会・商工会)内に物々交換ブース出店。[モノクル②]	200人
8/16	天神地区 (会場未定)	音楽イベントBLUE SPRING(主催・BLUE SPRING)中の物々交換ブースへのタイアップ協力。 [モノクル③]	100人
9月下旬	西南学院コミュニティセンター	「モノ」「カネ」「消費」から循環型社会の実現を考える講演会の開催。	200人
11月中旬	九州大学 (伊都)	九州大学大学祭(主催・大学祭実行委員会)のテントに物々交換ブース出店。 [モノクル④]	200人
12/22	TAO CAFÉ (中央区清川)	エコ・キャンドルナイトの実施(事業協力者への経過報告を兼ねる)	30人
2月中旬	TRAVEL CAFE (中央区大名)	屋内会場貸切物々交換イベント主催 [モノクル⑤]	60人
2月末	—	monoの整理・市内活動団体への寄付	—

* 「mono-icle」の名称には、“モノがくるくる循環する”という意味と、chronicle(年代記・物語)の二通りの意味がある。